

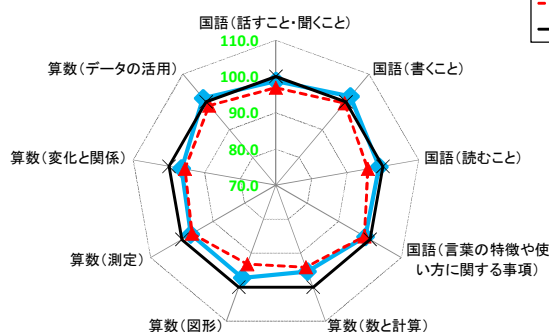
■札幌市内の状況及び「学ぶ力」の育成に向けた取組（小学校数：199校、児童数：13924人）（中学校数：100校、生徒数：11995人）

【教科全体の状況】教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

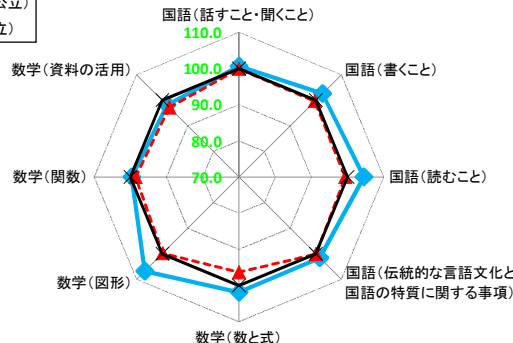
平均正答率（%）	小学校	中学校
国語	64(64.2)	66(66.0)
算数・数学	69(69.0)	58(58.1)

（ ）内は、札幌市が独自に計算した値。

小学校

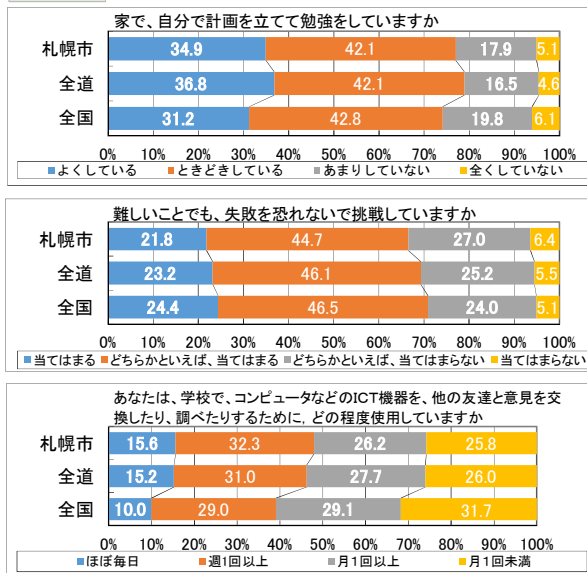


中学校

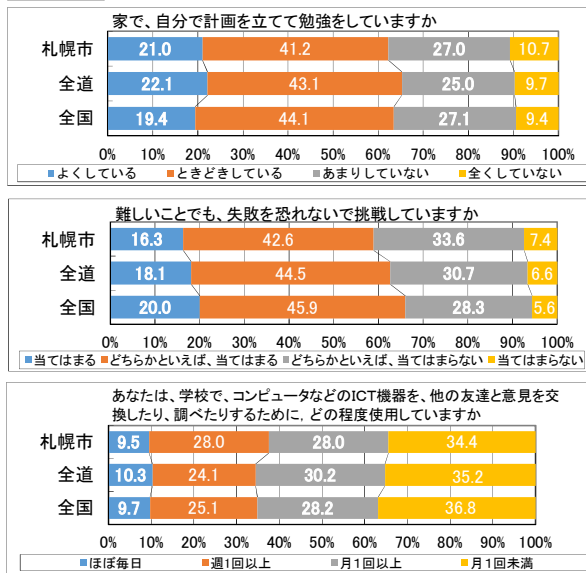


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

	小学校	中学校
教科	国語は、「書くこと」領域、算数は、「データの活用」領域において、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、「ほぼ同程度であるが、やや上回っている」。その他の領域においては、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で「ほぼ同程度であるが、やや下回っている」。国語では「目的に応じて文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けること」、算数では「判断の理由や解決の方法を考察し、数学的に表現すること」などに課題。	国語は、全ての領域において、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、「ほぼ同程度であるが、やや上回っている」。数学は、「図形」領域において、全国の平均正答率と比較して、「上回っている」。「数と式」領域において、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、「ほぼ同程度であるが、やや上回っている」。その他の領域においては、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で「ほぼ同程度であるが、やや下回っている」。国語では「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと」、数学では「判断の理由や解決の方法を考察し、数学的に表現すること」などに課題。
	⇒身に付けた知識・技能を活用することについて、小・中学校ともに課題	
質問紙	◇「自分で計画を立てて勉強すること」については、小学校、中学校ともに改善が見られた。⇒各学校において、「『学ぶ力』育成プログラム」に「学習習慣の定着」を位置付け、子どもの実態に合わせて具体的な取組を図るとともに、「さっぽろっ子『学び』のススメ」を活用しながら、家庭と連携して「学習習慣づくり」を図ってきた成果と捉えられる。 ◆「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦すること」については、小学校、中学校ともに、全国と同様に前回調査と比べ大きく減少しており課題。 ◇学校でのICT機器の活用について、5月の調査時期を考えると、比較的高い割合となっている。 ⇒中学校に比べ、小学校の方が高い状況にあり、小学校の導入の方がスムーズに進んでいたのではないかと考えられる。	

【「学ぶ力」の育成に向けた取組】

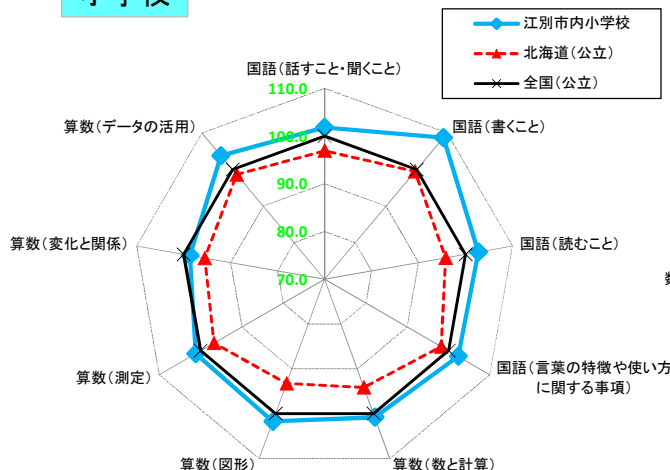
- ◎ 小学校と中学校の教職員が課題探究的な学習を協働的に推進
 - ◎ 「学ぶ力」育成プログラムを、中学校区を基本単位としたパートナー校の小・中学校が9年間の見通しをもって活用
 - ◎ 感染防止対策を講じつつ、学習内容や方法の工夫を行い、子どもが挑戦する機会や粘り強く取り組む機会を保障
 - ◎ 1人1台端末の授業での効果的かつ積極的な活用とともに、授業と家庭学習の接続を図り、学習・生活習慣づくりにも活用
- ⇒「さっぽろっ子『学び』のススメ」を活用しながら、子どもへの望ましい関わり方について、更に家庭と共通理解を図っていく。

■江別市内の状況及び学力向上策（小学校数:17校、児童数:862人）（中学校数:8校、生徒数:894人）

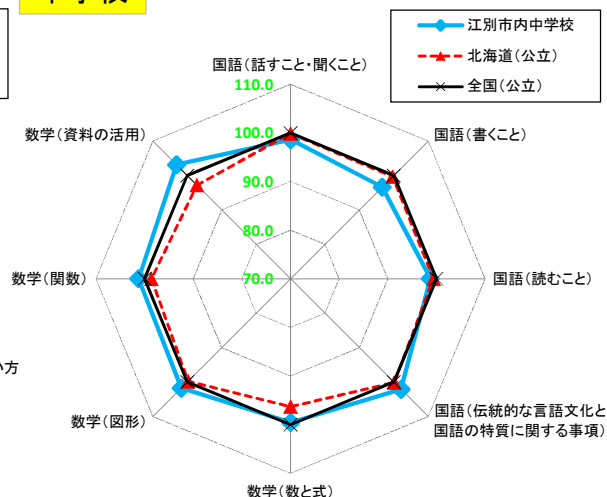
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

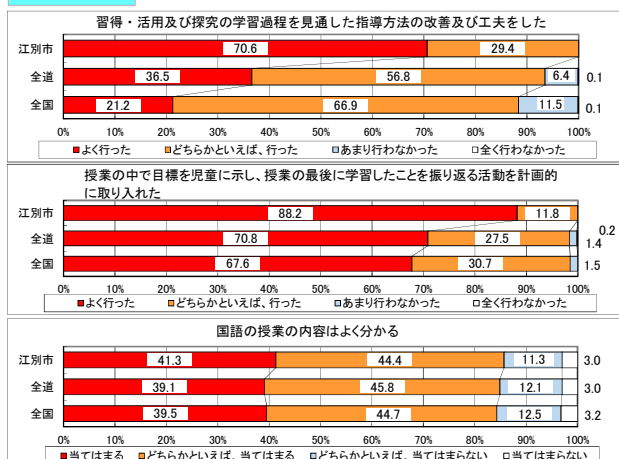


中学校

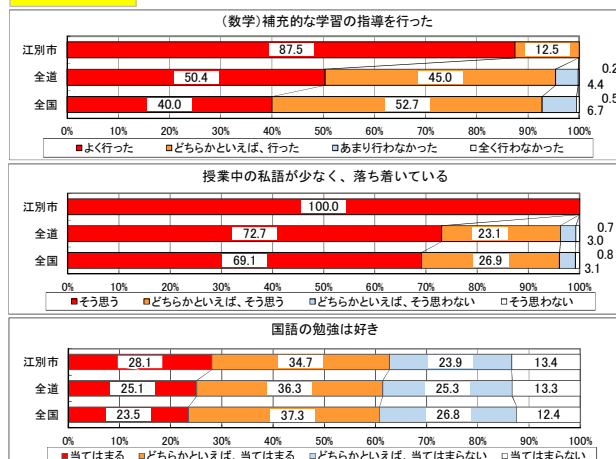


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をするともに、授業の中で目標を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れるなど、授業改善を進めたことにより、国語の全ての領域、算数の「図形」「測定」「データの活用」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

市全体で、児童の学力の定着に向けて、ICTを活用した学習活動の充実を図るとともに、学習活動の充実や学級担任と学習サポート教員が指導に当たる小中学校学習サポート事業などの取組を進めたことにより、国語の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、補充的な学習を行ったことにより、学習内容の定着につながり、数学の「図形」「関数」「資料の活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

各学校において、学習規律の定着に向けた取組を進めたことにより、授業中の私語が少なく、落ち着いていると回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体で、生徒の学力の定着に向けて、教科担任と学習サポート教員が指導に当たる小中学校学習サポート事業など学力向上に向けた取組を進めたことにより、国語が好きな生徒の割合が全国を上回るとともに、国語の「伝統的な言語文化と国語の特質に關する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【江別市の学力向上策】

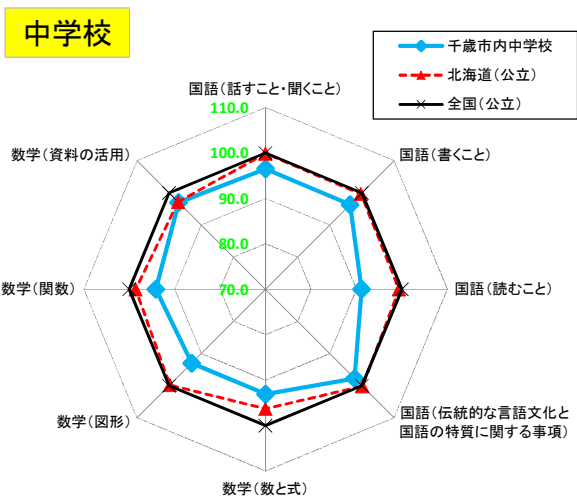
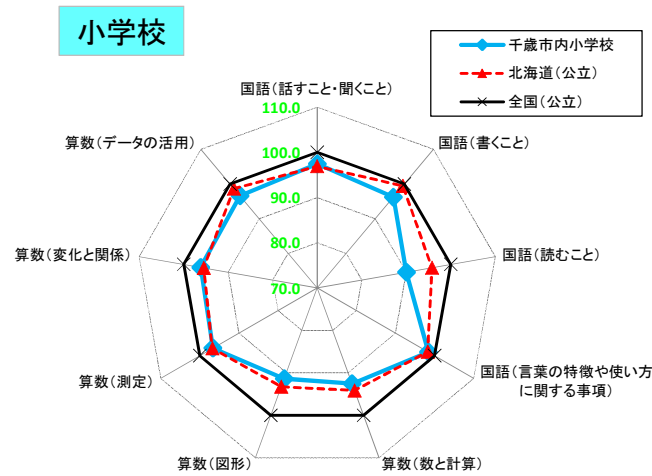
- ◎ 日常の授業において、学習サポート教員が指導に当たる小中学校学習サポート事業の実施
- ◎ ICTを活用した日常の学習活動の充実
- ◎ 学習指導要領に対応した指導者用デジタル教科書の整備

■千歳市内の状況及び学力向上策（小学校数:16校、児童数:812人）（中学校数:8校、生徒数:787人）

【教科全体の状況】

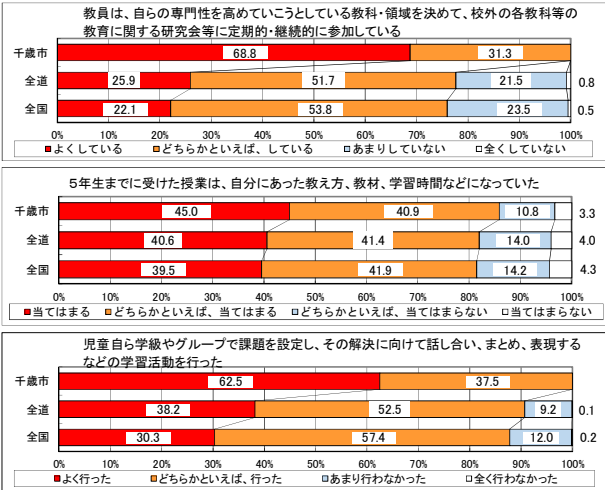
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	62
算数・数学	67	54

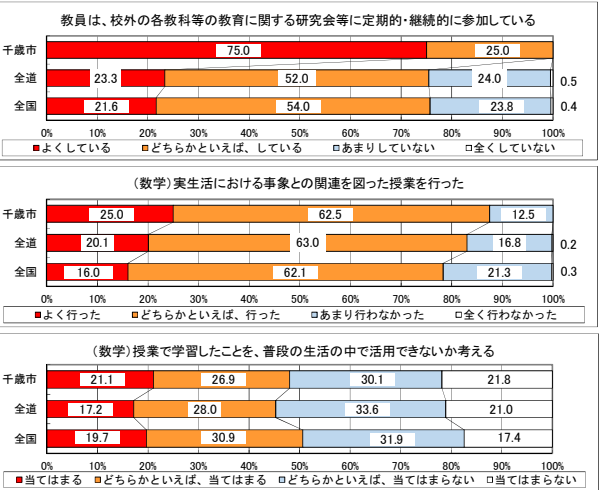


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

各学校において、千歳市学力向上検討委員会による提言を踏まえた授業改善の取組の徹底と検証を進めたことにより、個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めて、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している学校の割合が全国及び全道を上回るとともに、5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、話すことや聞くことに関する指導の場が増え、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率に近くなったと考えられる。

中学校

各学校において、千歳市学力向上検討委員会による提言を踏まえた授業改善の取組の徹底と検証を進めたことにより、個々の教員が、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している学校の割合が全国を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えることについて、当てはまると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

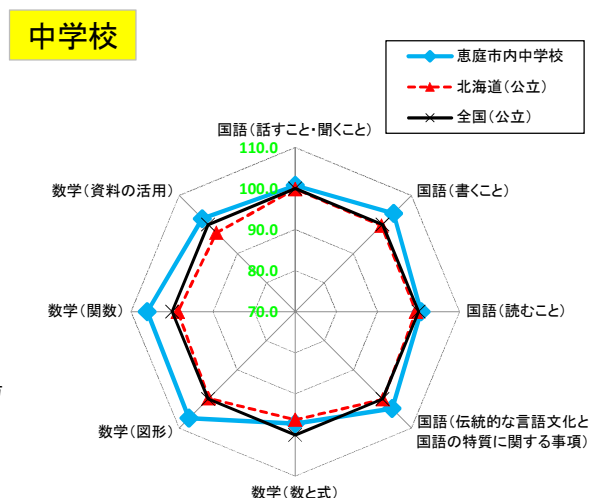
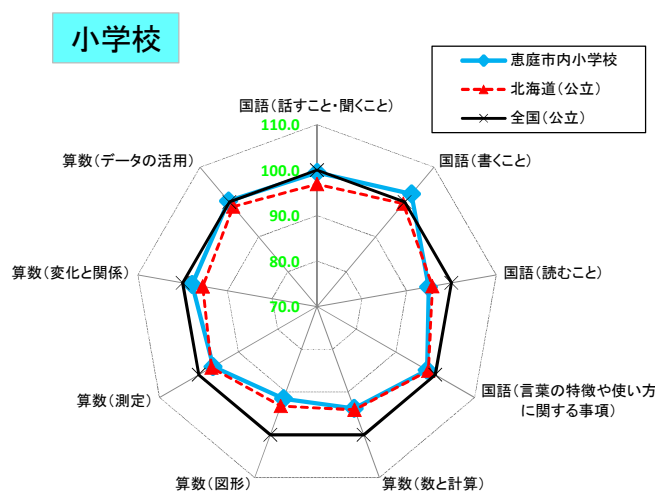
【千歳市の学力向上策】

- ◎ 千歳市学力向上検討委員会による、小中連携した授業改善の研究の推進
- ◎ 授業改善に向けたICT機器の効果的な活用
- ◎ 学習支援員の効果的な配置による習熟度別少人数指導の充実

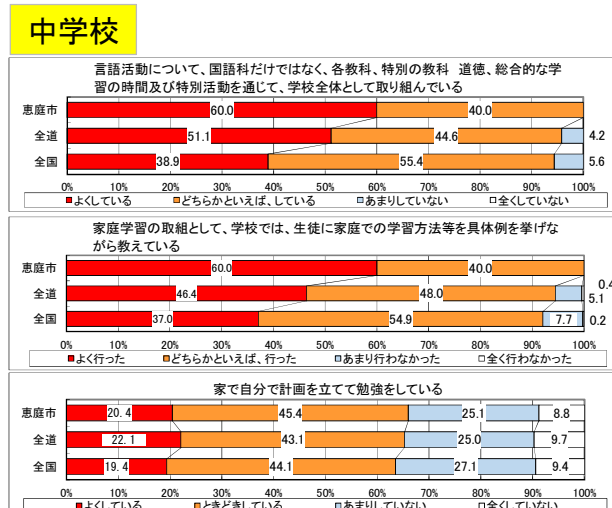
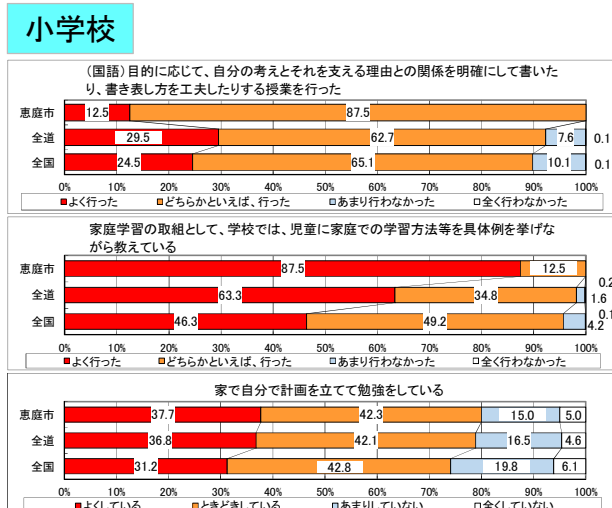
■恵庭市内の状況及び学力向上策（小学校数:8校、児童数:614人）（中学校数:5校、生徒数:584人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、国語の「書くこと」の領域で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。 各学校において、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
各学校において、言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の全ての領域・事項で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。 各学校において、家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

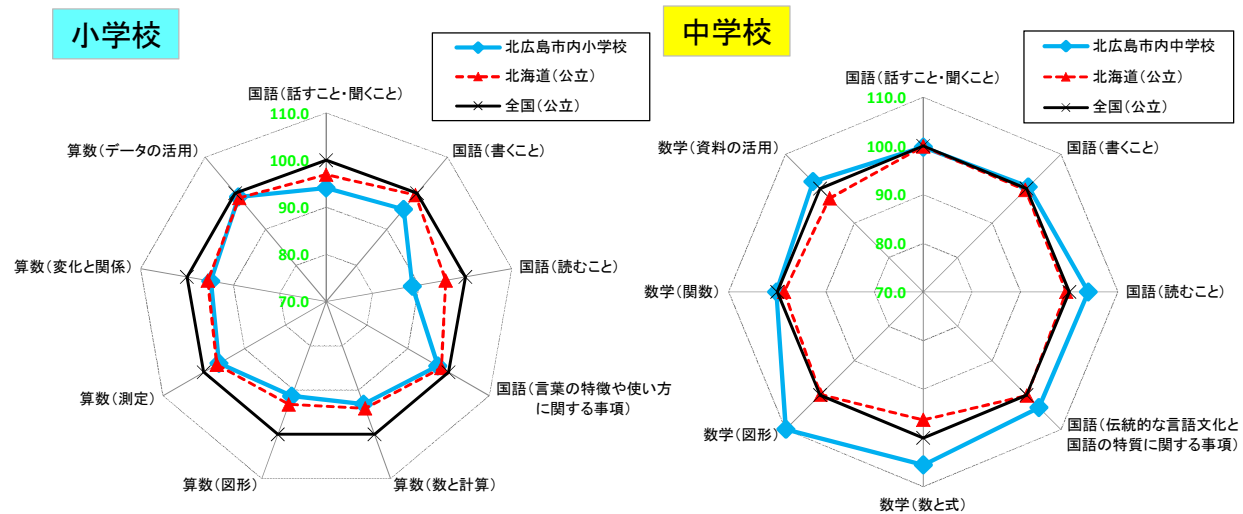
【恵庭市の学力向上策】

- ◎ 学力・体力向上推進会議における各学校の学校改善プランの取組状況の検証
- ◎ サマーセミナー、ウィンターセミナーなどの研修による教職員の指導力の向上
- ◎ 小中連携した教育の推進

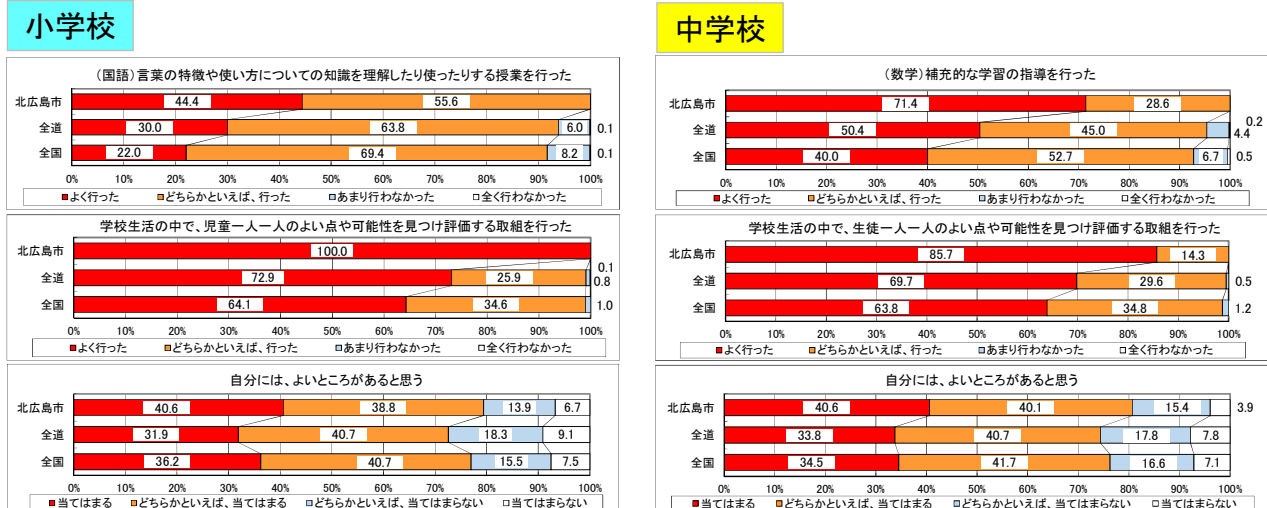
■北広島市内の状況及び学力向上策（小学校数:9校、児童数:491人）（中学校数:7校、生徒数:441人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。 各学校において、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組を行ったことにより、自分には、よいところがあると思うと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	数学の授業において、補充的な学習の指導を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、数学の全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。 各学校において、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組を行ったことにより、自分には、よいところがあると思うと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【北広島市の学力向上策】

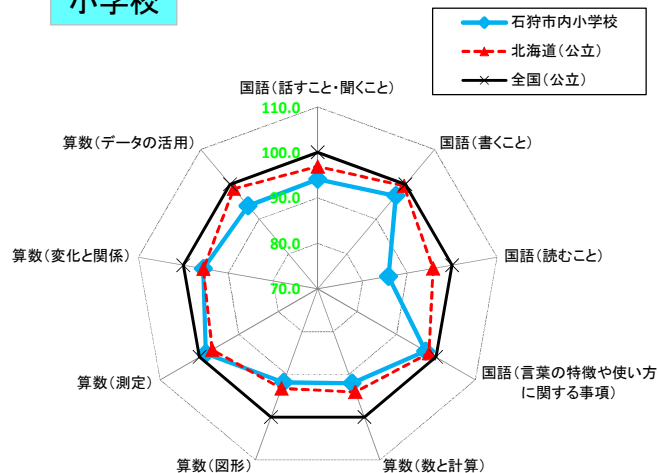
- ◎ 全国学力・学習状況調査の分析を踏まえた、授業改善や個に応じた指導の充実
- ◎ 各中学校区で策定したスタンダードに基づく、小・中学校の連携した学習・生活習慣を確立する取組の充実
- ◎ 市指導主事の指導助言による各学校の課題解決や教育課程の編成・実施の充実

■石狩市内の状況及び学力向上策（小学校数:10校、児童数:467人）（中学校数:7校、生徒数:483人）

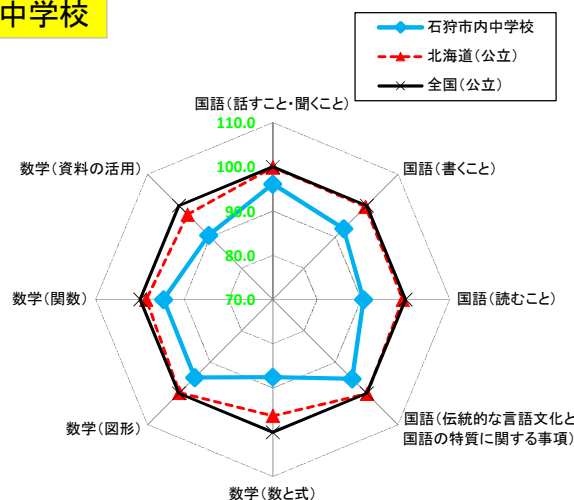
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

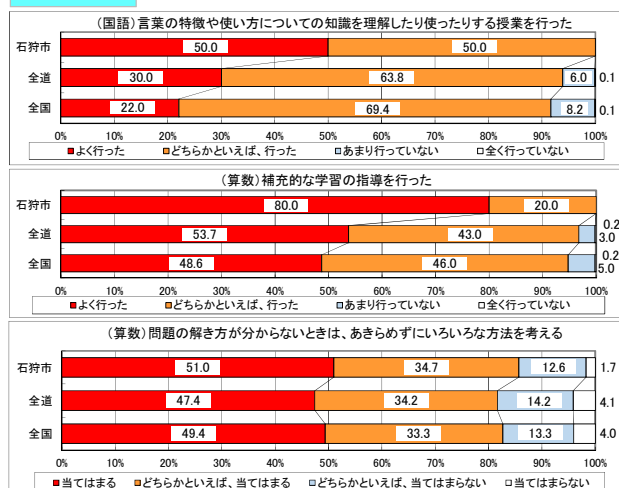


中学校

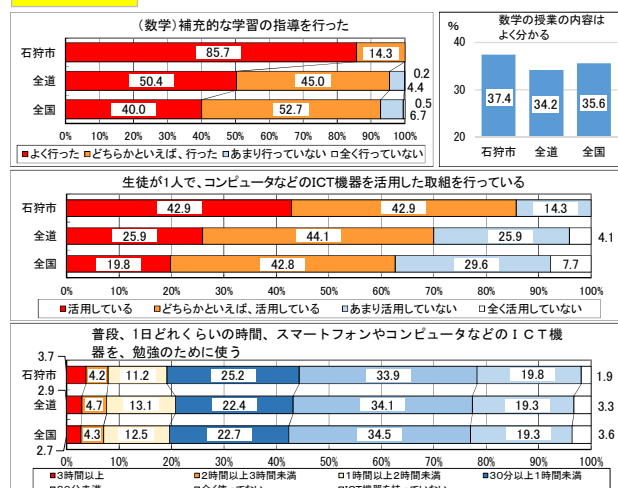


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業をよく行ったことにより、学習内容の定着が図られ、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

算数の授業において、エキスパートサポーターの活用や補充的な学習の指導を行ったことにより、問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、補充的な学習の指導を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、数学の「図形」の領域で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

各学校において、生徒が1人で、コンピュータなどのICT機器を活用した取組を行ったことにより、家庭でスマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、1日当たり30分以上勉強のために使っている生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【石狩市の学力向上策】

- ◎ エキスパートサポーターや外部指導者を効果的に配置した指導体制の充実
- ◎ 中学校の試験期間に合わせた小学校の家庭学習強化週間の設定
- ◎ 児童生徒の学びの保障を支えるための1人1台端末の本格的な活用

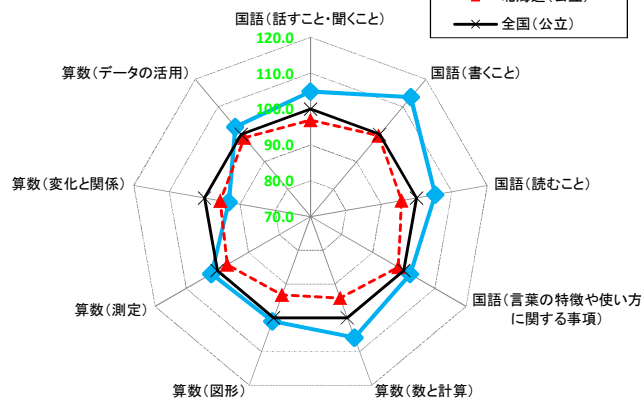
■当別町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:98人）（中学校数:2校、生徒数:105人）

【教科全体の状況】

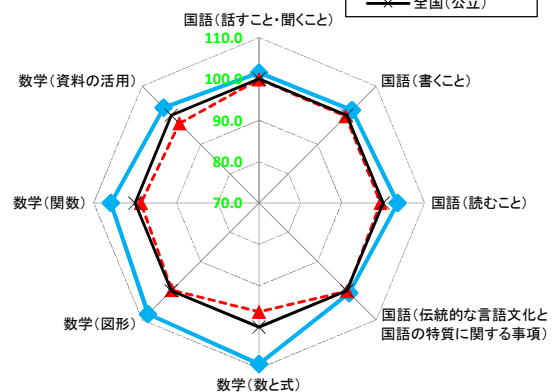
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	66
算数・数学	71	61

小学校

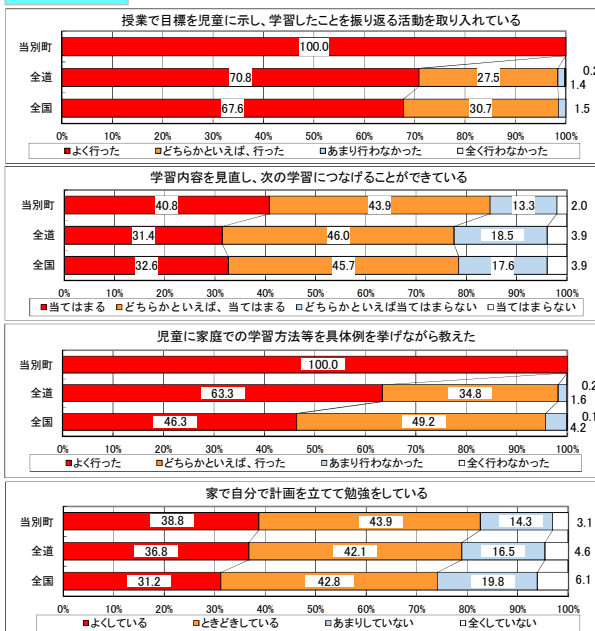


中学校

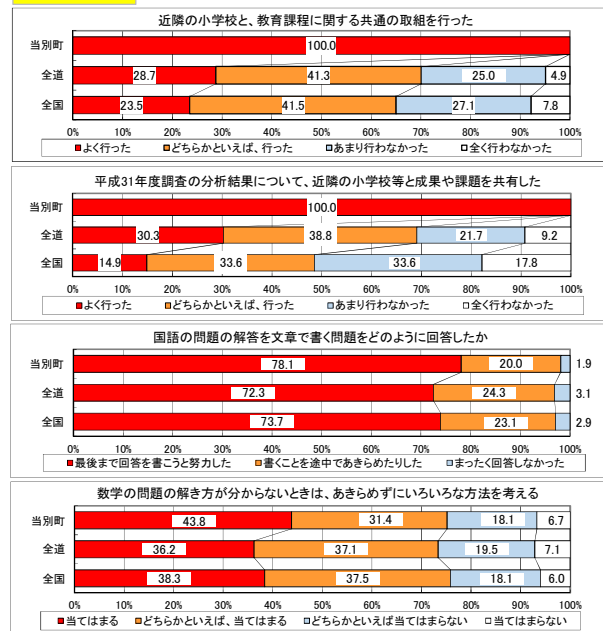


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、課題を児童に示し、最後に振り返る活動を取り入れるなど、授業改善を進めたことにより、学習内容を見直し、次の学習につなげることができる児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えたことにより、家で自分で計画を立てて勉強している児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町において、学力向上推進講師の配置等の取組を通じ、小中一貫したきめ細かな指導を実施したことにより、国語の全ての領域・事項、算数の「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

小・中学校間で、教育課程に関する共通の目標を設定するとともに、全国学力・学習状況調査の分析結果の成果や課題を共有し、小中一貫した学力向上に係る取組を実施したことにより、国語及び数学の全ての領域・事項で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

町全体で、小中9年間を見通した指導を充実させたことにより、国語において、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した生徒の割合及び、数学において、解き方が分からないときにあらかじめいろいろな方法を考えたりする生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【当別町の学力向上策】

- ◎ 小中9年間を見通し、学びの連続性や系統性を重視した教育課程の実施
- ◎ TT、少人数指導、習熟度別指導を取り入れた、きめ細かな指導による下位層の底上げと中間層のレベルアップ
- ◎ 1人1台端末により学びの個別最適化を図り、情報活用能力を意識した系統的な指導の実践